

平成24年12月18日

透明性と信頼

～住民の視点から～ 伝わっていますか？地域の思いが

情熱を持って、直接顔を合わせることが
重ねていくうちに心はきっと伝わります

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を
確保する地域の会

会 長 新 野 良 子

地域の会HPアドレス <http://www.tiikinokai.jp/>

新潟県柏崎市・刈羽村



東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所



「地域の会」誕生の背景

● 2002.7～8

村長(7月)、市長(8月)MOX燃料製造の欧州視察

地元→プルサーマル計画受け入れに賛否激論

● 2002.8.29

東京電力、不正問題を公表

● 2002.9.12

県・市・村が、プルサーマルの事前了解を撤回

● 2002.12

県・市・村・町が発電所の透明性確保をもって信頼回復を目的に、「地域の会」の設置を提案

(欧州視察時のフランスの例をヒントに、新しいスタイルの再発防止策として検討)

「地域の会」設立に向けて

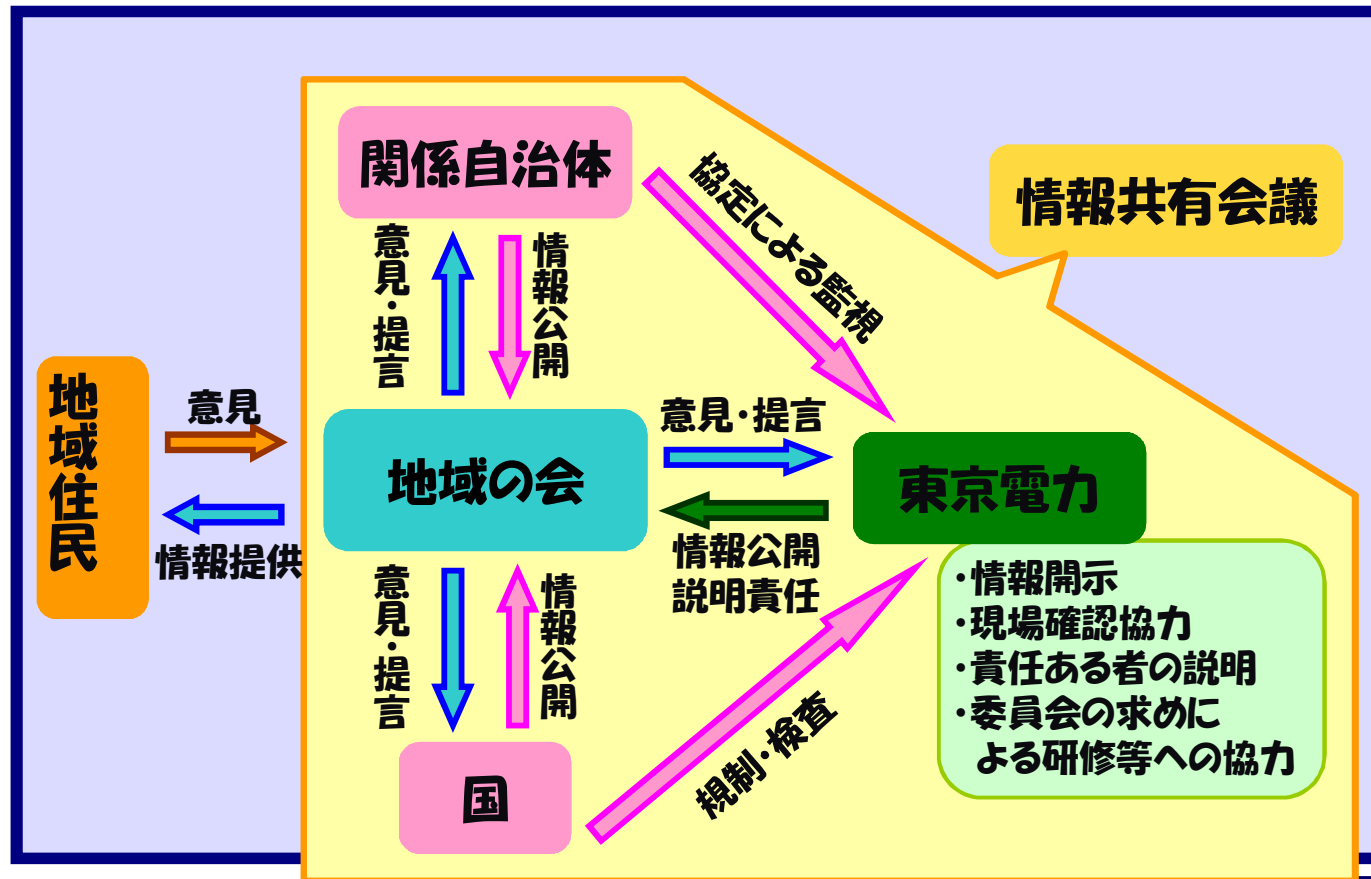
- 2002.12～2003.2
発電所をめぐる賛成・反対・中立の立場の住民の、
情報共有の場をめざした、準備会の開催
- 2003.4
新委員による予備会議の開催

・発電所そのものの賛否は問わない
・権限は持たない ・原則公開

【地域の会 概要】

- ①委員：柏崎市・刈羽村に在住し、会が認める団体・地域の推薦を受けた25名
以内の委員で構成。(公財)柏崎原子力広報センター代表理事(柏崎市長)から委嘱
され、任期は2年
- ②会の任務：発電所の運転状況及び影響等の確認・監視／事業者等への提言／
議論・活動等の住民への情報提供／委員の研修等
- ③県、市、村、国、事業者はオブザーバー、又は説明者として出席
- ④会議の種類：定例会(毎月1回)・臨時会(必要に応じ開催)・運営委員会(自主企画)

「地域の会」発足



- 2003. 5 地域の会発足
- 2004. 3 会長・副会長初選出

「地域の会」の運営

- 資金はNGO、運営はNPO
- 自主企画・運営
- 運営委員会(現在10名)
 - ・定例会の内容検討
 - ・情報誌「視点」の編集(全戸配布)
 - ・提言、意見書のまとめ
 - ・視察、勉強会の内容検討



議論で係わった主な事象

- 2002. 8 東京電力不正問題公表
- 2003. 3 柏崎刈羽原発、全号機停止
- 2004. 8 関西電力美浜発電所事故
- 2004.10 中越大震災(M6.8)
- 2005. 6 6.28水害
- 2005.12 18年豪雪
- 2006.10 北朝鮮核実験実施
- 2006.11 復水器出口海水温度データ改ざん
- 2007.1～3東京電力新たなる過去のデータ改ざん公表
- 2007. 7 中越沖地震(M6.8)(この後、柏崎刈羽原発、全号機停止)
- 2011. 3 東日本大震災(M9.0)(この後、柏崎刈羽原発、全号機停止)



地団研専報54号
「新潟県中越地震の被害と地盤」より



「地域の会」活動内容 （「地域の会の経緯」参照）

• 2003.12～2012.1

13回の提言・意見書・要望書提出

• **これまで定例会 114回（毎月1回）**

運営委員会 121回

臨時会 8回

情報誌「視点」 57回発行

視察（県外） 6回

（他に柏崎刈羽原子力発電所視察等）



時を経て、それぞれに変化が見えはじめる

「地域の会」からの提言・意見①

- 2003.12.14 <保安院、東京電力へ>
原子炉圧力抑制室内の異物問題に対するまとめ
- 2004.6.2 <保安院、東京電力へ>
1年間を総括しての提言
- 2005.4.12 <保安院、自治体、東京電力へ>
2年間を振り返って
- 2005.8.26 <原子力委員会へ>
原子力政策大綱(案)に対する意見書 検討書
- 2006.2.1 <保安院、自治体、東京電力へ>
原子力総合防災訓練を視察して
- 2006.3.1 <新潟県へ>
新潟県国民保護計画(素案)に対する意見

「地域の会」からの提言・意見②

- 2006.6.22 <内閣府原子力安全委員会へ>
原子力委員会「発電用原子炉施設に関する耐震設計指針(案)」及び「原子力安全基準・指針専門部会の見解」に対する意見
- 2006.12.6 <柏崎市へ>
要望書(原子力の課名復活)
- 2007.5.9 <経済産業省、東京電力へ>
要望書(データ改ざん問題を受けて)
- 2007.12.13 <原子力委員会、原子力安全委員会、経済産業省、資源エネルギー庁、東京電力、新潟県、柏崎市、刈羽村へ>
03年海底活断層再評価の公表を受けて
- 2010.2.26 <資源エネルギー庁へ>
エネルギー基本計画について

「地域の会」からの提言・意見③

- 2011.3.24 <内閣総理大臣、経済産業大臣、衆議院議長、参議院議長、原子力委員会、原子力安全委員会、資源エネルギー庁、原子力安全・保安院、新潟県、柏崎市、刈羽村東京電力へ>

地域の会意見書の提出について

- 2012.1.25 <経済産業大臣、内閣府特命担当大臣(原子力行政)、原子力安全・保安院、原子力安全委員会、原子力委員会、資源エネルギー庁へ>

要望書(原子力発電所の安全・防災対策について)

「地域の会」の役割

- 賛成・反対・中立の情報を同時に発信
- 顔を合わせ、地域住民とオブザーバーが情報を共有
- 互いの立場を尊重し、冷静で客観的な議論を重ねる
- 幅広い情報を引き出し、バランスのある住民の視点を施策へつなぐ
- 自立へ

課題と見えてきたもの

- 直接顔を合わせ、課題やプロセスを共有
- 情報は「なまもの」(メディアとも共通認識を)
- 情報の透明性・中立性・公平性(メディアとも共通認識を)
- 主観性と客観性
- 現場の認識と情報の風化を避ける
- 責任と役割の明確化 ↔ 第三者的評価が必要

今、伝えたいこと

～これからのコミュニケーションのために～

- 信頼に足る議論には、先に結論があってはならない
⇒ プロセスが重要
- 情報は受け手が選択するもの。出し手がコントロールすべきでない
⇒ 透明性
- 賛成・反対の二極化からは何も生まれない
⇒ ・立場(考え)が混在する中間層
・歩み寄る姿勢
- ハードとソフトは両輪・ほど良い緊張と連携
⇒ 共通認識